



シカ21時パート2

芦北町立

佐敷小学校

6年

浅野和花

1 石研究の動機

3年前（令和3年）、私の家の近所に夜、現れるシカについて調べた。5日間、同じ時間に道路沿いから見えるシカの数を数えて回ったが、その時は最大で7匹だった。3年がたった今、今も私の家の近所の畑でしゃっちゃん見かける。どの場所にどのくらいの数のシカが現れるのか、「3年前」と「今」を比べてどう変化したのか調べようと思った。

2 石研究の方法

夜8時〜9時に、道路から見えるシカを探す。見つけたら次のことを記録する。5日間行う。

(1)どこにいたか。

(2)何匹いるか。

※「大人のオス」「それ以外のシカ」に分けて数えた。

大人のオスは、角があるので分かるが、子供のシカは角がないのでオスとメスの違いがよく分からない。

また大人のメスは体が小さく、子供と大人の違いがはっきりしない。



3 石研究の結果



出展: GoogleMap



	大人	子供
メス		
オス		
オスの角がまだ生えていない		

表の見方

- オス
- メス カ 子ジカ (カメ)
- メス カ子ジカ X10
- オスがメスと判別できなかったシカ

4 石研究のまとめ(分かったこと)

(1) シカは増えている。

3年前と比べて道路沿いに現れるシカの数は増えていることが分かった。R3年最大7匹→R6最大103匹

増えた理由は単純に増えたか、他の場所から移動してきたかは分からない。しかし私は単純に増えたのが理由だと思う。その理由は大人が増えているのではなく子供が増えているからだ。大尼田の環境はシカが子育てをするのに適しているのではないかと考えた。

(2) シカが減った場所

シカが減った場所もある。そこは草が茂っていた。3年前は牛を放牧していて草は短かった。しかし今は牛を放牧しておらず、草が高く茂っていた。そんな場所にはシカはいない。また、じゃ草刈をまいてある畑もいなくなっていた。これらのことから、シカの現れる場所と人間の活動に関係があると思った。



(3) あまり逃げない。

イノシシは車と出会うと逃げることが多いがシカはこっちのほうをじっと見つめることが多い。特にオスは逃げない。父の車に当たったのも、オスだった。メスと子供の群れは、オスよりも警戒心が高いようで、ある程度の距離まで近づくと逃げることが多かった。

5 これから調べたいこと

今回は8月の夏の研究だったが、秋や冬になるとき、と同じ場所には集まらないと思う。それはエサとなる草の状態が変わるからだ。秋や冬はどんな生活をしているのか気になった。また、今回は晴れの日だけだったが、雨が降ってもやっぱり同じ場所に集まっているのか確かめたいと思った。